

Vol.5

社会福祉法人戸田わかさ会のアート広報紙

# Hot kiwi fruit juice

作家と家族と作品と

キックオフ展 & アーティストトーク in 工房集ギャラリー

ここから展 in 国立新美術館

埼玉県障害者アート企画展 in 埼玉県立近代美術館

アーティストトーク in 川越市立美術館

# はじめに

戸田わかさ会のアート広報紙  
「Hot kiwi fruit juice (ホットキウイフルーツジュース)」も  
今号でVol.5となりました。

今号のテーマは「作家と家族と作品と」です。

このようなテーマにした理由は、  
鑑賞者に「作品だけ」に目を向けてほしくないからです。

展覧会で展示されている作品の背後には、  
自宅や施設で表現活動をしている作家の姿があります。

そこには真剣な表情や楽しそうな表情があります。

さらに、そんな作家たちの背後には、家族がいます。

そこには作家を支える愛情があります。

作家を無視して作品を語るのが困難であるのと同様に、  
家族を無視して作家を語ることも困難です。

今号では、展覧会の報告と併せて、  
会場にいらっしゃった作家のご家族の表情をお伝えできればと思います。

Hot kiwi fruit juice編集部

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP士〇結成後、最初の展覧会、キックオフ展。

作家たちに会えるイベント・アーティストトークでは、会場となった工房集ギャラリーを満員のお客さんが埋め尽くしました。そんな大盛況の会場でお話したのは柴可南子さん(わかくさ)のお母さん。作品制作時の可南子さんの様子などを話して頂きました。会場では、可南子さん自身もペンを手に取りお客さんたちの前でライブドローイングを披露したりマイクパフォーマンスをしてみせたりと活躍し、大好評でした!



お客さんたちの前で満面の笑みを見せる可南子さん。

アーティストトークで話すお母さん。

# ここから展

2016,10/21-10/23  
国立新美術館



文化庁主催の展覧会『ここから—アート・デザイン・障害を考える三日間—』。  
日本全国から集まった12人の作家・・・その一人に水村英喜さん(ゆうゆう)が選ばれました!  
オープニング・レセプションはゆうゆうの旅行と重なってしまい、英喜さんは欠席。それでもお母さんとお兄さんがレセプション会場に駆けつけてくれました! 展覧会の運営に携わっている女優の東ちづるさんと記念写真をパシャリ☆



オープニング・レセプションには、英喜さんの作品を招待してくれた埼玉県立近代美術館の前山さんや、女優で一般社団法人Get in touch代表の東ちづるさん、アーティストの日比野克彦さんの他、文化庁長官や国立新美術館の館長さん、アーツカウンシル東京の機構長さんの姿もありました。戸田市を飛び出してたくさんの人に英喜さんの作品を観て頂きました!



ゆうゆうの旅行から帰ってきた翌日、国立新美術館にやってきた英喜さん。六本木で自分の大切なジオラマ作品と再会し、誇らしげな表情で記念撮影!  
なお、英喜さんのジオラマ作品写真集は部数限定でゆうゆうで販売中です。(税込1,080円)



展示されている英喜さんのジオラマ作品の接写。英喜さんの大好きな道路標識と信号機が所狭しと乱立しています。



英喜さんのジオラマ作品の実物展示に加えて、プロカメラマン五十嵐一晴さんが撮影した「解体・移築前のジオラマ作品」と「解体・移築後のジオラマ作品」の写真も展示されました。



今村明義さん(わかくさ)の作品は木の枝です。道端で木の枝を手折り、余計な小枝を折り捨てて加工し、カタカタと歯にあてたり、手でひらひらと振っています。これらの枝は、自然を感覚的にとらえる今村さんの「日常の行為」の産物です。



田中貴之さん(わかくさ)は大変硬い石塑粘土の板をちぎり、手の中で転がしたりこねたりしてオブジェを作ります。強力な握力があって初めて造形される作品であり、加えて今作では、マジックペンでグサグサと刺されて着色されています。



齊藤勇真さん(ゆうゆう)は、ティッシュペーパーや糸くずを指先で器用に加工し、息を吹きかければ吹っ飛んでしまうような繊細なオブジェを作り上げます。これらの造形物は「日常の行為」の「蓄積」が視覚化された作品といえます。



柴可南子さん(わかくさ)の作品は一心不乱にドローイングが施されたビニール袋や紙袋です。柴さんの作品は色彩と喜びにあふれています。この展覧会では、会場の壁面を埋め尽くすように展示されていました。



# 埼玉県 障害者アート 企画展

2016,12/7-12/11  
埼玉県立近代美術館

第7回埼玉県障害者アート企画展。戸田わかくさ会からは4名が入選しました!おめでとうございます!



会場で自分の作品を発見し、不思議そうに見つめる齊藤勇真さん。



会場で自分の木の枝を発見し、思わず手に取っていつものように口に当てている今村明義さん。

2017,2/2-2/11  
川越市立美術館

# アーティストトーク

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP士〇は、春日部市・川口市・川越市の会場で3ヶ所同時に展覧会を実施しました。戸田わかさ会からは前述の埼玉県障害者アート企画展で入選した4名が川越市立美術館で展示をし、特に田中貴之さんと柴可南子さんはアーティストトークに登壇しました。



田中貴之さんはお母さんと一緒に川越市立美術館に来ました。会場では自分の粘土作品に気がついて思わずタッチ。アーティストトークでは、職員による紹介を受けながらお客さんたちに、作家としての姿を披露しました。



柴可南子さんはキックオフ展に引き続き、お母さんと一緒にアーティストトークに参加しました。写真からも分かる通り、たくさんのお客さんたちの前で、作品制作時の様子をお母さんにお話し頂きました。

## 《編集後記》

2016年度、埼玉県内で表現活動をしている施設間の「横のつながり」が、社会福祉法人みぬま福祉会・工房集を事務局とした「埼玉県障害者アートネットワークTAMAP士〇(タマップ・プラマイゼロ)」として組織化されました。「『埼玉県は特にこれといって特色がないんです』と言ってしまふほど謙虚で控えめで県内の自慢が下手な県。でも良いところはたくさんある。」というイメージを表したのが士〇(プラマイゼロ)という表記です。今回掲載したキックオフ展や埼玉県障害者アート企画展、3ヶ所同時開催展などは埼玉県障害者アートネットワークTAMAP士〇の活動であり、たくさんのお客さんから反響がありました。社会福祉法人戸田わかさ会も、このネットワークのメンバーとして、引き続き頑張っていきたいと思えます。

《発行元》社会福祉法人戸田わかさ会 《住所》〒335-0021 埼玉県戸田市新曽 1522-1  
《電話》048-229-7421 《FAX》048-229-7431 《担当》わかさ生活支援員 清水